

ニカラグア定期報告（2016年1月）

2016年2月
在ニカラグア日本大使館

【要旨】

〈内政・外交〉

内政では、与党FSLNに対する支持率57%、オルテガ大統領の好感度57%と現政権に優位な世論調査結果が発表された。外交では、台湾総統選挙結果に際しオルテガ大統領が次期総統宛に祝意メッセージを発出した。また、カリブ海における小型船舶事故によりコスタリカ人13名が死亡したことを受け、オルテガ大統領は、ソリス・コスタリカ大統領に弔意を表明した。

〈経済〉

11日、中銀は2007年から2015年の経済動向を報告するとともに、本年の成長予測を発表した。また、21日には政労使間協議により本年の最低賃金増加率につき合意に至った。日ニカラグア関係では、28日、日本市場向け輸出基本ガイドがJICA帰国研修生により発表された。

【主な出来事】

1 内政・外交

(1) 世論調査結果

民間調査会社CID-Gallup社が1月7日～12日に実施した世論調査結果によれば、サンディニスタ民族解放戦線（FSLN）に対する支持率は57%、立憲自由党（PLC）は4%、独立自由党（PLI）は2%、その他政党は2%、無党派は35%であった。また、著名人に対する好感度については、ムリージョ大統領府広報官（大統領夫人）の好感62%、嫌悪感23%、オルテガ大統領については好感57%、嫌悪感31%、エドゥアルド・モンテアレグレPLI代表は好感18%、嫌悪感43%、ノエル・ビダウレPLC大統領候補が好感16%、嫌悪感22%であった。

(2) 台湾総統選挙結果に係るオルテガ大統領メッセージ

18日、台湾総統選挙で当選した蔡次期総統宛に、オルテガ大統領はムリージョ大統領夫人と連名で祝意メッセージを発出した。

(3) カリブ海における小型船舶事故に係るコスタリカ政府へ弔意表明

23日、当国カリブ海に位置するリトル・コーン島からコーン島へ航海中の小型船舶が転覆した。同船には、計34名（コスタリカ人26名、英国人2名、米国人2名、ブラジル人1名、乗員2名を含むニカラグア人3名）が乗船しており、そのうち21名が生存、12名が死亡、1名が行方不明となった。死亡者及び行方不明者は全てコスタリカ人であった。この事故を受け、25日、オルテガ大統領は、ソリス・コスタリカ大統領に対し、

弔意を表し、ニカラグア政府及び国民の連帯の意を述べた。また、同日、ムリージョ大統領夫人は、今回の事故は大惨事であるが、一方で、両国の友愛と連帯を示した旨述べた。

2 経済

(1) 2007年～2015年のマクロ経済

11日、当地中銀は「2007年～2015年の経済政策及びマクロ経済」報告書を公表した。レジエス中銀総裁は、好調な経済成長に加え、一人あたりGDPが60%、外国からの直接投資が423%、家族送金が70%伸びた点等を強調し、「本年も経済成長率は4.5～5%、インフレ率は5～6%となり、好調であろうが、国際経済に見られる暗雲は国内経済の主要リスクである。ニカラグア経済は、農業、産業、商業及びサービス業の継続した成長を伴う、調和した発展を続けている。雇用創出は全てのセクターで見られている。右は多様化の一助となり、いずれかの分野で打撃を受けても抵抗力ある経済であることに資するため、非常に重要である。」と述べた。

(2) 最低賃金に関する政労使合意

21日、3年ぶりに企業家、政府及び労働者間で、約1万6千人の正規労働者に裨益する最低賃金の調整が合意に至った。最低賃金の本年の増加率は中小企業では8%、その他のセクターでは9%となった。最低賃金の値上げは3月と9月の2度に分けて実施され、2017年2月28日まで有効となる。ただし、9.80～10.98%増加した2015年に比べ低い値となった。アゲリ民間企業最高審議会会長は、この8年間で6回目となる三者間合意である、過去2年間合意に至らなかったが、これは初めて3度目（という早い段階で）の協議が合意に至った重要なニュースであり、この三者構成主義を今後も強化し、雇用を生んでいかねばならないと述べた。また、バルボッサ労働組合代表は、「三者間合意は失業の削減に資する上、国内外からの投資誘致にもなる」と述べた。

(3) 日本市場向け輸出の基本ガイドの発表

JICA国別研修の帰国研修員であるルス・マリナ・アラナ氏は、28日、「日本市場向け輸出の基本ガイド」を発表した。同氏によると、ニカラグアから日本への輸出は未だ少ないものの、日本はニカラグアにとって進出拡大の可能性を秘める市場である。2015年、ニカラグアは日本への輸出によって1,540万ドル以上を売り上げたが、右売上額は輸出手続きセンターによると、2014年比31.6%減であった。アラナ氏によると、ニカラグアが日本に輸出している主要品はコーヒー、ごま、牛肉（臓物）、ロブスター、エビであるが、一方で、ニカラグアが日本に輸出していない多様な領域がある。例えば、日本はパーム油、鮮魚、カカオ等ニカラグアでも生産している商品を輸入している。アラナ氏は、「日本市場向け輸出の基本ガイド」の中で、日本市場における様々な秘訣に触れている。同ガイドには、貿易に大きく影響する商品のイメージ及び質から日本人気質に至るまで、日本市場に乗り出すための多くのポイントが盛り込まれている。

<主要経済指標>

	2016 年			2015 年	2014 年
	1 月	12 月 (2015 年)	11 月 (2015 年)		
インフレ率 (前年同月比)	3.2%	3.1%	2.0%	5.4%	5.2%
貿易収支(百万ドル)	未発表	△273.5	△387.6	△3,012.4	△2,824.7
輸出 FOB(百万ドル)	未発表	178.4	151.8	2,419.4	2,624.5
輸入 FOB(百万ドル)	未発表	451.9	539.5	5,431.8	5,449.2
海外送金 (百万ドル)	未発表	120.6	95.7	1,193.4	1,135.8
外貨準備高(百万ドル)	未発表	2,492.27	2,420.77	2,492.27	2,276.2

(出典：ニカラグア中央銀行)